



公益社団法人

全国助産師教育協議会

Japan Society of Midwifery Education

No.87 2016. 9. 23



Student Midwife Café を終えて

京都大学大学院医学研究科

(第30回日本助産学会学術集会会長)

我部山 キヨ子

第30回日本助産学会学術集会が、2016年3月18日（プレコングレス）、19日～20日（大会）の3日間に渡り、京都大学時計台百周年記念館、国際科学イノベーション棟において盛会裏に開催されました。

1. Student Midwife Café の企画・運営と表彰校の選出

今回初めて、日本助産学会学術集会の開催に合わせて Student Midwife Café を開催致しましたが、日本全国（北海道から九州まで）から17校（22ブース）もの助産師教育機関の参加がありました。発表は19日9校、20日8校が1演題10分（発表8分、質疑2分）で行い、一つ一つの発表を多くの方が熱心に聞き、熱い議論が繰り広げられました。いずれの教育機関も教育に独自の工夫がみられ、学生の発表も非常に活発かつユニークで、若さとエネルギーにあふれ、助産学の明るい未来を予感させるもので、非常に好評で、出席者全員が大いに満足致しました。全国の助産師教育機関の助産師学生が一堂に会し、それぞれの教育機関の特徴などを発表することを通して、他校の特徴や仲間のことを知ることを通して、自校の特徴や良さを再認識し、自校への愛校心や自負心及び同じ道を志す仲間との協調性を深めたポスターセッションとなりました。

その中で特に優秀であった3校に、全国助産師教育協議会から優秀賞（京都大学大学院高度実践助産学系）と特別賞（聖バルナバ助産師学院）、第30回日本助産学会学術集会から優秀賞（日本赤十字広島看護大学助産師課程）として、表彰状と記念品を授与致しました。表彰基準は、①学生らしさ：内容の工夫と努力とオリジナリティ、②プレゼンテーション：視聴者の心に届く

表現、理解しやすい説明、③ポスター：主張が伝わる表現（構成、文字、写真、イラスト等の配置、配色など）で、社会貢献委員会委員5名の投票により決定致しました。

また、Caféと名をうちましたので、第30回日本助産学会学術集会より2日間ともに数種類のおにぎりとおパンおよびコーヒーを各々100食分が提供されました。両日ともに参加者は会場一杯で、すべての品物が出払いました。時期的にはまだまだ肌寒い時でしたから、温かいコーヒー付きの昼食は非常に好評を頂きました。

2. 今後の期待と展望

現在の助産学の発展は、我々の多くの先達の力によって築き上げられたものです。近未来の助産学は、現役の助産師や助産師を志している若い助産師学生が築き上げていくものです。今後、学生の皆さんは卒業して、一人前の助産師となり、助産業務の継続と改善を図っていく存在になりますが、今回の学会での発表は自尊心を高め、専門職としての自覚の構築と視野の拡大に大いに役立つものと思います。

助産学の歩みを確かなものとし、大きな潮流としていくために、助産学教育に携わる我々一人一人が担う責務を心に刻み、助産学教育の向上を目指して、高い倫理的感能力と専門的能力を備えた助産師学生を養成することは、全国助産師教育協議会として極めて重要です。今後、全国助産師教育協議会は、学術集会長と協力して、このような企画を積極的に推進し、助産師学生の全国的な交流と研究者としての道を開いていくことは極めて意義深いと考えます。

平成28年（2016年）熊本地震のお見舞い

4月14日から発生した熊本を中心とする連続的な地震で亡くなられたお一人お一人を悼み、ご家族のご心痛を衷心よりお見舞い申し上げます。

被害に遭われた方々、避難所生活をされておられる方々に対して、心より深くお見舞い申し上げます。

震災、二次災害がこれ以上拡大することなく、事態が収束に向かうことを心よりお祈りいたします。

全国助産師教育協議会 会長 井村真澄

扉	1
教育・活動報告	2
ニュース	5
全助協からのお知らせ	6

トピック	9
わかばの部屋	12
理事会報告	13

東京地区研修会報告

平成 27 年度東京地区地区長 聖路加国際大学 片岡 弥恵子

2015 年度東京地区では、慶応義塾大学総合政策学部の井庭崇先生をお招きし、“助産教育における教授方法のラーニングパターンからの検討”と題した研修会を開催しました。午前中は、井庭先生からの講義にて、学び方の経験、教え方の経験としてラーニングパターンを見出すこと、そしてその活用方法や意義を学びました。午後からは、井庭研究室から生み出されたラーニングパターンカード（販売されています！）を使って、パターンラーニングの実際をグループワークにて行いました。このラーニングパターンカードは、創造的な学びの秘訣を言語化したものです。秘訣は 40 個のパターン（型）としてまとめられており、各パターンには、どのような「状況」において、どのような「問題」が生じやすく、それをどう「解決」すればよいのか、という秘訣が記述され、それに「名前」（パターン名）がつけられています。各グループでは、カードに記述されている秘訣についての自分の経験知を語り、学ぶ上で大事なことを共有しました。グループワークでは、井庭研究室の学生さんがファシリテーターとして活躍してくれました。学部生とは思えないほどのファシリテーション力で、アクティブラーニングの成果と見て取れました。

次に（ここが今回の研修のメイン）“助産実習における教育方法の秘訣”を抽出するワークを行いま

した。助産教育において私たち教員、そして学生が最もエネルギーを投入するのが助産実習です。学生が充実した学びができるように、それぞれの学校または教員が工夫を凝らしています。しかし、他の学校または教員がどのような教育をしているのかをお互いに共有する機会は少ないのが現状です。そこでこのワークでは、助産実習における教育方法の秘訣、大事にしていることを出し合いました。ポストイットにたくさん書いて、分類する作業の中で、“こんなことで悩んでいる”“大事だと思うけど難しい”など参加者の素直な気持ちが語られました。そして、学生のためには思いやっていることが、逆に学生の学びの機会を狭めている可能性があること気づきました。私自身も、学生が“失敗しないように”“悩まないように”“傷つかないように”との思いから、“失敗から学ぶ機会”“主体的に学ぶ機会”を奪っているのではないかと感じました。そして、井庭研究室の学生ファシリテーターから、“そんなにも学生のことを思って教育しているのですね！！”と驚かれ、私たち教員は、学生を心配する気持ちから逆に過保護になっているのかもという感想も聞かれました。

今回の研修は、10 時に始まり 17 時まで、じっくりとみっちり助産教育について考える機会になりました。様々な視点や方法で助産教育を考えることの重要性を感じた 1 日でした。

◎医学書院の助産師向け書籍

産み育てと助産の歴史

近代化の 200 年をふり返る 編著 白井千晶

出産が医療化する以前までお産に携わってきた取り上げ婆から現代の助産師まで、出産に携わる女性たちの歩んできた激動の歴史を綴る 1 冊。

●A5 頁320 2016年 定価:本体2,800円+税 [ISBN978-4-260-02482-2]

根拠と事故防止からみた

小児看護技術 第2版 編集 浅野みどり

好評書に動画付録を加えた改訂版。写真とイラストで手順を解説、「根拠」「コツ」「注意」「事故防止のポイント」「緊急時対応」を満載。学習にも臨床でも頼りになる 1 冊。

●A5 頁552 2016年 定価:本体4,000円+税 [ISBN978-4-260-02500-3]

実践 マタニティ診断 第4版

編集 日本助産診断・実践研究会

マタニティ診断の基礎知識から活用のしかたまでを網羅した実践書。妊娠婦や新生児をどのように観察し診断するのかに関して、事例を交えて実践的に理解できる。

●B5 頁336 2016年 定価:本体3,800円+税 [ISBN978-4-260-02493-8]

根拠と事故防止からみた

母性看護技術 第2版 編集 石村由利子 編集協力 佐世正勝

好評書の改訂版。豊富な写真とイラストに「動画付録」が追加。妊婦、産婦、褥婦、新生児それぞれに対する看護技術を広く網羅。

●A5 頁508 2016年 定価:本体4,000円+税 [ISBN978-4-260-02499-0]

医学書院

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 [WEBサイト] <http://www.igaku-shoin.co.jp>
[販売部] TEL: 03-3817-5650 FAX: 03-3815-7804 E-mail: sd@igaku-shoin.co.jp

第41回 全国助産師教育協議会 研修会を終えて

聖隷クリストファー大学 助産学専攻科

中部地区 担当理事 久保田 君 枝

第41回全国助産師教育協議会研修会を3月5日（土）～6日（日）の2日間、浜松で開催いたしました。ご多忙の中、遠路、多数の方々のご参加をいただきありがとうございます。また、参加者の声として、「おもてなしの心を感じた」「学びのある研修でした」という声を聞かせて頂き、担当者としては感慨無量の思いです。参加者は166名（学生ボランティアを含む）でした。

講師の皆様が研修会の趣旨と研修会のテーマ「人・技・場 つながる力・つなげる力」をご理解頂き、テーマに沿ってお話をしてくださり、まさしく実践の場で人をつなぎ、技をつなぎ、場をつなぎ、学びの輪が広がる研修にして下さったことに感謝申し上げます。

1日目のワークショップでは、特別講演の離島という悪条件の中で、IT、ITCを活用し、他領域との連携を取りながら周産期医療を成功させた、小田切

先生の講演内容を、ファシリテーションのワークにつなげて、学生支援のためのチーム力upや教育力upのスキルを学びました。

2日目の教育講演、シンポジウムでは、講師の方々の専門性と目的に向かって諦めない強い精神と忍耐強く日々努力されている成果をお聞かせ頂き、明日への勇気と力をもらい、モチベーションを上げることにつながった。

中部地区が当番校として担当させて頂きました。この研修会の成功を願って当番校が一丸となって準備したことは、会員同士の繋がりがより近い関係となり、それぞれの役割を担ってくださったことが成功裡に終わる結果となった。当番校の皆様へ感謝。

最後に会長様のご挨拶が静岡新聞に掲載されたことは地域の方々に助産師の存在をアピールするよい機会になったと思っております。



平成 28 年度 第 7 回定時社員総会報告

全国助産師教育協議会 副会長

福岡県立大学大学院 助産学領域 教授 佐藤 香代

平成 28 年 6 月 3 日（金）・4 日（土）、第 7 回（通算 52 回）定時社員総会が、新潟青陵大学で行われましたので、概要をご報告いたします。

総会には、正会員 142 校、総正会員数 284 名のうち 260 名の出席（本人 177 名、書面出席 83 名）がありました。

議事に先立ち、「熊本地震」の被震者の皆さまに哀悼の意を表し、一日も早い復興を祈念して、全員で黙祷を捧げました。

井村真澄会長の開会挨拶では、新体制での活動報告と今後の課題、方向性が述べられました。続いて、ご来賓の文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官 斉藤しのぶ様、厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課 内田愛子様よりご挨拶をいただき、看護系大学における助産師教育や母子保健の動向についての話題を提供していただきました。さらに、厚生労働省医政局看護課 教育体制推進官の佐山理絵様からは「看護行政の動向と助産師教育への期待」のご講演をいただきました（それぞれの資料はホームページに掲載しておりますので、ご参照下さい）。

総会議長には、福島富士子氏、安田孝子氏が、議事録署名人には、石山さゆり氏、濱寄真由美氏が推薦され、承認されました。議長より定款第 30 条に基づき正会員の過半数に達しており、総会が成立していることが報告され、議案の審議に入りました。

まず各委員会の担当理事より平成 27 年度委員会活動が報告され、続いて井村会長より「厚生労働省看護職員確保対策特別事業」の結果が報告されました。次に片岡弥恵子地区長総括より、平成 27 年度地区活動の報告がありました。続いて久保田君枝委員長より、浜松市で行われた全国研修会の報告がなされ、以上の事業報告は過半数をもって承認されました。さらに、福島裕子会計担当理事より平成 27 年度収支決算が、熊澤美奈好監事より監査報告があり、平成 27 年度収支決算及び監査報告は、過半数をもって承認されました。

次に佐藤香代副会長（総務担当）が、平成 28 年度事業計画の説明・報告を行い、福島裕子会計担当理事が平成 28 年度収支予算の説明・報告を行いました。

会員から出された将来ビジョンの取り組みの方向性の質問には、佐藤香代副会長がこれまでの活動経緯を説明し、今後も会員の意見を尊重しながら、道筋を明快に提示し進めて行きたい旨を述べ、以上をもって総会を閉会しました。

その後は、日本助産評価機構理事の平澤美恵子氏より、「専門分野別評価の視点を知る－教育機関の第三者評価から－」の講演があり、認証受審の必要性が語られました。

地区別打ち合わせでは、地区長選出や地区研修会等の活動等が検討されました。地区長打ち合わせでは、地区長の位置づけ、責務、地区長会の開催、地区研修会で行う課題、会計について説明し、意見交換を行いました。

2 日目の午前中は、ワークショップ「先駆的教育方法の試み」を行いました。参加者は 5 つのワークショップに分かれ、教育方法の実際と効果を学びましたが、大変好評で、またこのような企画を行ってほしいという意見が多くみられました。午後の教育課程別検討会では、それぞれの課程が抱える課題について活発な意見交換が行われました。

全体報告会では、地区別打ち合わせ、ワークショップ、教育課程別検討会、地区長打ち合わせの内容が報告されました。本年度の地区長が紹介され、地区長総括は近畿地区の池内佳子氏に決定したことが報告されました。

続いて助産師教育ファーストステージ研修の告知がなされ、また九州・沖縄地区の兵頭慶子氏から、第 42 回全国研修会を平成 29 年 3 月 4 日（土）・5 日（日）に、宮崎市で開催する旨の報告がありました。

最後に我部山キヨ子副会長が閉会の挨拶を述べ、2 日間を無事に終了することができました。会員の皆様のご協力に、深く感謝申し上げます。

「第99回 助産師国家試験」出題内容適否の検討会に参加して

昭和大学 助産学専攻科 教務主任 准教授 上田 邦枝

本年度の資格・専門能力委員の役割である助産師国家試験分析は、関東甲信越地区および中部地区の42校の教育機関の先生方が担当でございました。初めて委員の大役を仰せつかり、今までにない緊張感の中で12月を迎え、打ち合わせが始まりました。委員の先生方に親切にご教示頂きますことで安心感に変化していった反面、失敗は許されないという責務がより募ってまいりました。1月には作業過程を担当校の各先生方にお送りするのですが、ご多忙な先生方であることも配慮しながら、担当委員の先生方と共に、2月の本番に向けての事前準備を進めてまいりました。結果的には、資料送信サイトの導入と事前メール配信による準備工程がスムーズに稼働致しまして準備が順調に進行致しました。しかし、国家試験終了後の当日19時には各先生方に問題を配信し、4日後には解答及びその問題の妥当性の結果を集約することが必要なため、例年とは違う緊張感高まる日々でございました。

国家試験当日は学生さんにもご協力を得て、定刻よりも早い時間に担当校の先生方に国家試験問題を送信することができ、またご依頼するだけでなく、

全体の問題を丁寧に読み解きながら正解を導いてまいりました。援助の根拠性や言葉の定義を医学書で再度調べる良い機会となり、出題者の意図をしっかりと把握するという事に立ち戻ることができ、今後の教育に活かして行けるものと感じました。

私が国家試験を受験したのは20数年前ではございますが、諸先生方が、このように助産師としての到達レベルや国家試験問題の妥当性を丁寧に考えて下さって今の自分があると思うと、大変感慨深く、感謝の気持ちで胸が熱くなりました。また、国家試験問題の課題が残るとしてあげた設問ですが、やや方法論に偏った出題ではあったものの、改めて助産師の業務内容の拡大や今後の能力発展の方向性を考える機会となり、ご指導頂きました我部山先生には未来に向けての新たな学びを頂戴いたしました。ありがとうございました。担当校および委員の先生方に助けて頂き、全過程を滞りなく終了できまして、達成感と感謝の気持ちでいっぱいでございます。各教育機関校との連携を図っていくことの重要性も改めて感じる事ができましたので、皆さまも、是非、資格・専門能力委員をご経験頂ければと思いました。

助産師基礎教育テキスト

●多様化している助産師基礎教育のどのコースにおいても必要な、基礎的な知識と技術、態度を網羅しました。

- 第1巻 助産概論
〔責任編集〕山本あい子 定価(本体3,400円+税)
- 第2巻 女性の健康とケア
〔責任編集〕吉沢豊予子 定価(本体4,400円+税)
- 第3巻 周産期における医療の質と安全
〔責任編集〕成田 伸 定価(本体3,400円+税)
- 第4巻 妊娠期の診断とケア
〔責任編集〕森 恵美 定価(本体3,600円+税)

- 第5巻 分娩期の診断とケア
〔責任編集〕町浦美智子 定価(本体3,600円+税)
- 第6巻 産褥期のケア／新生児期・乳幼児期のケア
〔責任編集〕横尾京子 定価(本体3,600円+税)
- 第7巻 ハイリスク妊産婦・新生児へのケア
〔責任編集〕遠藤俊子 定価(本体4,500円+税)

数値データや法律、ガイドラインの解説等に伴う記述を毎年見直しています！



新版 助産師業務要覧 第2版

I 基礎編

福井トシ子 編
●B5判 332頁
定価(本体3,000円+税)

II 実践編

福井トシ子 編
●B5判 340頁
定価(本体3,000円+税)



日本看護協会出版会

〒102-0084 東京都千代田区二番町4-3 二番町カシュビル3F
〈営業部〉TEL.03-6685-0340 FAX.03-6685-0341
【コールセンター(ご注文) TEL.0436-23-3271 FAX.0436-23-3272]

<http://www.jnapc.co.jp>

平成 29 年度 第 8 回定時社員総会のお知らせ

全国助産師教育協議会 副会長 佐藤 香代

会員の皆さまには、日ごろから全国助産師教育協議会の活動にご理解・ご協力をいただき、感謝申し上げます。

平成 28 年度は、新しく選任された理事会で新潟での社員総会を終え、新たな課題に向けて活動を開始したところです。

さて 7 月 16 日に行われました第 2 回理事会で、下記のように第 8 回定時社員総会の開催が決定しましたので、お知らせいたします。なお総会案内は、ホームページにも掲載しております。助産師教育を巡るさまざまな動きや看護基礎教育の動向、教育方法等、会員の皆さまと情報を共有しあいながら、活

発な意見交換ができればと考えております。次期総会で話し合いたいテーマや希望する講演等がありましたら、どうぞ事務局にお知らせ下さい。理事会で検討させていただきます。

なお次期総会は、役員（理事及び監事）改選の年となります。選挙公示は来年行う予定にしておりますので、公示内容で詳細をご確認下さい。会員の皆さまにおかれましては、万障お繰り合わせの上、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

次回、東京でお目にかかれますことを、楽しみにしております。

第 8 回（通算 53 回）公益社団法人全国助産師教育協議会社員総会

日 時	場 所
2017（平成 29）年 6 月 10 日（土）・11 日（日）	東邦大学 看護学部 〒143-0015 東京都大田区大森西 4-16-20

2016年7月発売

新生児蘇生モデルアドバンス

LM-111 標準価格 ¥400,000 (税別)

新生児に対する心肺蘇生法の訓練モデルです。
モデルから心音・呼吸音・泣声が再現でき、
タブレットPCによるワイヤレス操作が可能です。

KOKEN 株式会社 高研

札幌営業所 TEL(011)221-5888 / 仙台営業所 TEL(022)218-9540
東京営業所 TEL(03)3816-3500 / 名古屋営業所 TEL(052)950-6580
大阪営業所 TEL(06)6304-4854 / 福岡営業所 TEL(092)263-5101

特長

アプリ画面（操作画面）

心音、呼吸音、泣声はタブレットPCで簡単に操作できます。



***** www.kokenmpc.co.jp *****

※タブレット PC の仕様が予告なしに変更になることがあります。

第 42 回 全国助産師教育協議会 全国研修会

当番校：九州・沖縄地区

今年度の全国研修会は、テーマを「つなぎ・拓く、教育力アップを目指して」とし、九州・沖縄地区で開催致します。

今回の研修は、看護の動きを見据えながら、日々の学生教育に役立ち、かつさまざまな体験をつなぎながら学べるものという趣旨で、多くの講師の方々をお招き致します。学生の学ぶ力をどう引き出すか、教員や臨地指導者の教える力をどう身につけるかを皆様とともに学び、議論を深めたいと思っております。

会場となる宮崎市は、天孫降臨、日なたの国として花と緑、空と海が美しい、早春は野球・サッカーのキャンプ地でもあります。宮崎ブーゲンビリア空港から 15 分程度の立地にあります。

近くには、かつて新婚旅行のメッカとして、何と集客 8 割を誇っていたという青島だけでなく、神の産殿址、大きな洞窟にある霊地「鶴戸神宮」があります。豊玉姫の「おちち岩」が残され、安産・育児の拠り所、漁業・航海の守護神、念流・陰流剣法発祥の地として美しいスピリチュアルな場です。降り注ぐ太陽に育まれた新鮮な野菜・果物、連続日本一に輝く宮崎牛、温泉もお楽しみください。

ぜひこの機会に早春の宮崎に足をお運びいただきたく、大勢の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

研修会実行委員長 兵頭慶子

◇参加費：会員 10,000 円 非会員 12,000 円

◇ワークショップについては、企画推敲中です。

ご希望がございましたら、お知らせください。

参加・企画提案ともにお持ちしております。

【研修会の問い合わせ先】

宮崎大学大学院助産学研究科 兵頭慶子

E-mail: keiko_hyodo@med.miyazaki-u.ac.jp

日程：平成 29 年 3 月 3 日（金）
～ 3 月 5 日（日）

会場：3 日 宮崎大学医学部総合教育研究棟
宮崎市清武町木原 5200

4, 5 日 宮崎観光ホテル
宮崎市松山 1-1-1 0985-27-1212

プログラム：

〔3 月 3 日〕 学生交流集会

演題：学生からみた離島実習

鹿児島大学大学院院生、他

＜演題募集中＞

* 助産師学生さんの発表応募をお持ちしております。まだ、間に合います。どうぞ事務局にメールで発表テーマ、発表者、学校名、連絡先、担当者をお知らせくださいませ。

〔3 月 4 日〕

* ご挨拶・講演

全助協

* 教育講演

「低出生体重児の地域・施設連携」

今給黎総合病院 NICU 副院長 原田純子

* 教育講演

「専門職の裁量とキャリア開発」

東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻看護管理学／看護体系・機能学分野
武村雪絵准教授

* 教育講演

「助産師として知っておきたい薬剤の知識」

宮崎大学大学院看護学研究科 柳田俊彦

〔3 月 5 日〕

* ワークショップ

「学ぶ力・教育力を育てる教育方法」

・ 助産学概論におけるアイデンティティの育成
佐賀県立総合看護学院助産科教育主事 川崎圭子
・ 助産管理論におけるアクティブラーニング
九州医療センター附属福岡看護専門学校助産科教育主事 新地裕子
他

* 特別講演 「あきらめないところ」

伊藤真波

（日本初片腕義手の看護師 授乳中の母

北京・ロンドンパラリンピック競泳日本代表）

* 実践助産関連内容も盛り込む予定です。

第31回 ICM カナダ・トロント大会のお知らせ

東京医療保健大学看護学研究科 高度実践助産コース 理事 大石 時子

第31回 ICM（国際助産師連盟）3年ごと大会が、2017年6月18日から22日までカナダの首都トロント市で開催されます。Midwives – Making a difference in the world（助産師—世界中で変化を起こす）をメインテーマに、リーダーシップを通して変化を起こす、パートナーシップを通して変化を起こす、専門性を通して変化を起こす、女性と少女の権利を支持して変化を起こす、を日々のテーマとし

て、今までにない規模の4000人の参加者を見込んで企画しているとのこと。

発表抄録の受理が7月1日に発表されるので、その後、ホテルの申し込みが増えるものと思われます。登録料は1135カナダドルですが、2017年2月28日までは早期登録のディスカウントがあります。

詳細は <http://www.midwives2017.org/> をご覧ください。 国際担当理事 大石時子



新生児蘇生法 2015 変更の要点と注意点

日本周産期新生児医学会 新生児蘇生法委員会 副委員長
鹿児島市立病院総合周産期母子医療センター長

茨

聡

はじめに

国際蘇生連絡委員会 (ILCOR) の Consensus on Science with Treatment Recommendations (CoSTR) 2015 に基づいた [日本版新生児蘇生法ガイドライン 2015] が、2015 年 11 月に公表されました。

1) 2015 年版 NCPR アルゴリズム変更点 (表 1、図 1)

(1) 蘇生中 (分娩室) の体温管理 (2) 生後 60 秒以内の時間軸の表示 (3) 心電図 (ECG) モニターについて (4) 換気の有効性の評価 (5) 胸骨圧迫時の酸素濃度 (6) アドレナリンの使用 の 6 項目であり、蘇生に立ち会う医療従事者が誰でも遅延なき有効な人工呼吸が実践でき、質の高い安全な医療が担保されることが基本的なコンセプトです。

(1) 蘇生中 (分娩室) の体温管理

36℃ 未満の低体温は死亡や合併症に関わることから、出生直後からの体温管理の重要性を強調しています。目標の体温は 36.5-37.5℃ で、NICU または新生児室入室時の体温を記録することが推奨されました。

(2) 生後 60 秒以内の時間軸の表示

人工呼吸を 60 秒以内に開始することを強調するためにアルゴリズムでは、出生後 60 秒以内の時間軸を明示しました。これは初期処置を確実に実践し有効な人工呼吸が行える、すなわち気道開通を初期処置中にしっかり行って、人工呼吸のタイミングを遅延させないためのおおむねの指標で、無呼吸、除脈の新生児に対して出生後 60 秒で人工呼吸を開始するのではなく、出生後 60 秒以内のなるべく早い時期に確実に有効な人工呼吸を開始することを意味しています。

表 1

2015 年版アルゴリズム変更点

- i. 蘇生中 (分娩室) の体温管理
- ii. 生後 60 秒以内の時間軸の表示
- iii. 心電図 (ECG) モニターについて
- iv. 換気の有効性の評価
- v. 胸骨圧迫時の酸素濃度
- vi. アドレナリンの使用

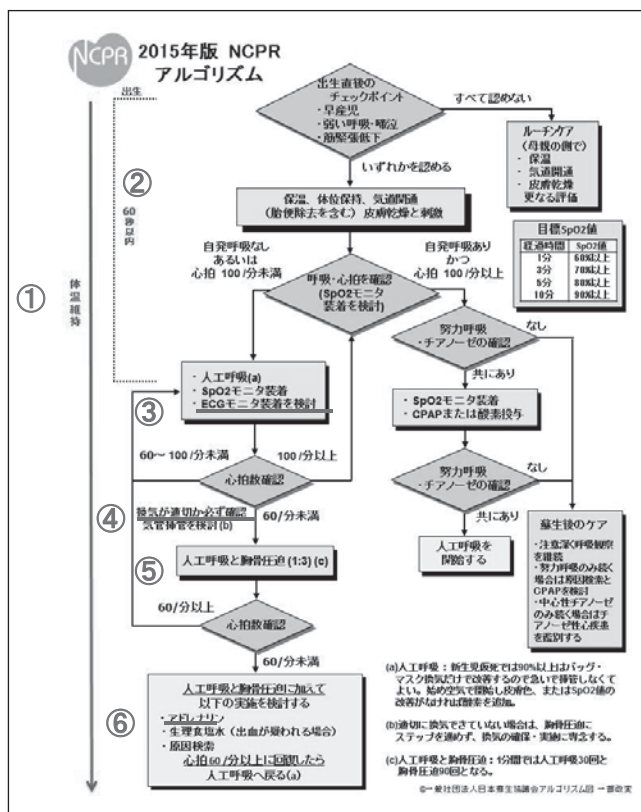
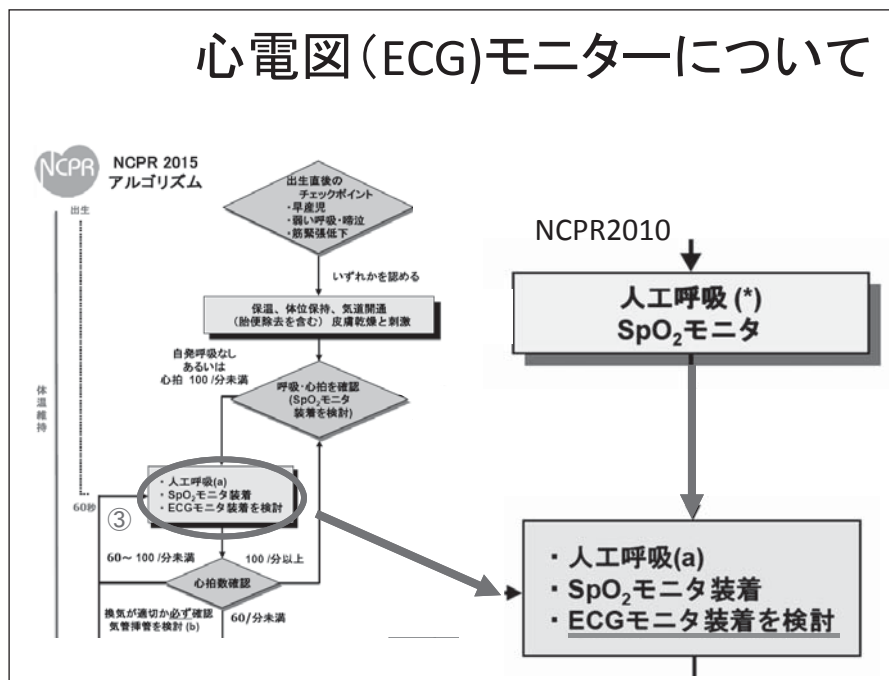


図 1



(3) 心電図 (ECG) モニターについて

心拍数確認のためのモニタリングとしての心電図 (ECG) モニターの検討が追加されました。(図 2) その根拠として、以下の理由があります。

a) 心拍数測定までの時間

パルスオキシメーターと心電図 (ECG) の比較では、心電図は中央値 38 秒であるが、パルスオキシメーターはばらつきがあり、中央値 122 秒であり、心電図の方が迅速に測定できることがわかります。(図 3)

b) 心拍数測定の正確性

聴診、触診で測定した心拍数と心電図で測定した心拍数との差は、聴診で約 12 回/分、臍帯触診で約 20 回/分過小評価していることが

分かります。(図 4)

心拍数の過大評価は、治療（人工換気、胸骨圧迫、アドレナリンなどの薬剤投与）の遅れを生じ、過小評価は、不必要な治療の介入を招く重要なモニタリングであるため、その正確な評価が望まれるために、今回の改定では、心電図 (ECG) の検討が採用されたと考えられます。(表 2)

今回の心電図モニターの検討は、現状のパルスオキシメーターを活用したモニタリングを否定するものではなく、酸素化の評価も含めてその位置づけは変わりません。

(4) 換気の有効性の評価

換気的重要性を再確認するために、人工呼吸を 30 秒以上施行しても心拍数が 60/分未満の場合には、

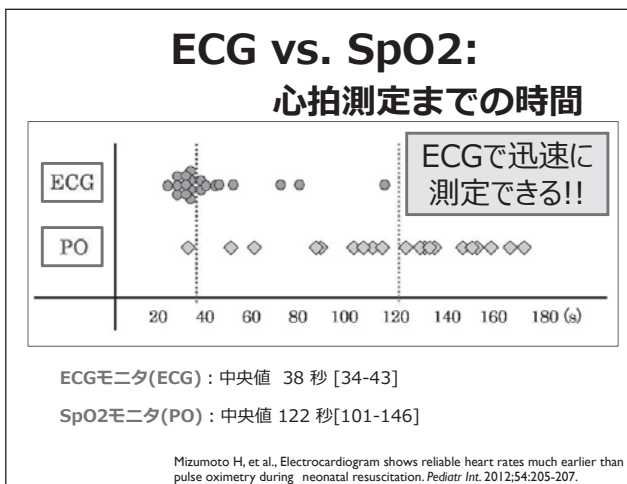


図 3

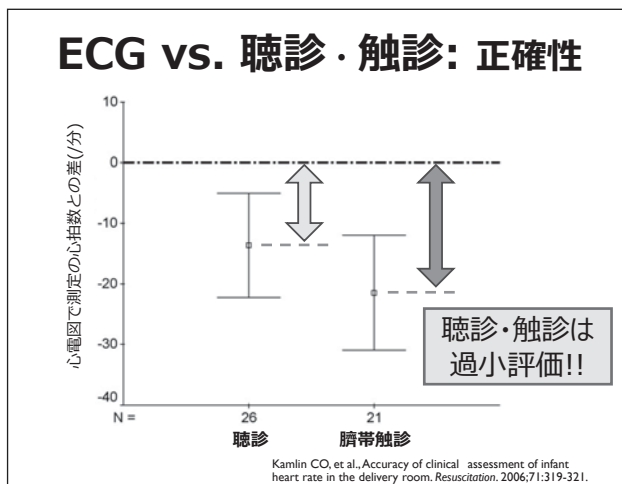


図 4

表2

心拍評価の重要性	その他の推奨
心拍数は介入の変更またはより進んだケアの必要性を決定する i. 過大評価 必要な介入の遅れ 人工呼吸・胸骨圧迫の遅れ ！ ii. 過小評価 不必要な介入	ラリngeアルマスクエアウェイ(LMA) 推奨と提案 34週を超える早産児や正期産児の蘇生において、フェイスマスクでの換気がうまくいかなければ、LMAを気管挿管に代わる手段として提案する。 34週を超える早産児や正期産児の蘇生において、陽圧換気がうまくいかず、気管挿管が出来ない特殊な状況であれば、LAMを推奨する。

図5



“必ず”という言葉を追加して換気が適切か必ず確認と記載しています。

(5) 胸骨圧迫時の酸素濃度

2010年版アルゴリズムでは、胸骨圧迫時には、100%酸素の使用が推奨されていましたが、2015年版では、胸骨圧迫中の酸素投与が推奨され、酸素濃度を上げることが堅実であるが、酸素毒性の観点から、自己心拍が再開した場合には、酸素飽和度を見ながら、可及的速やかに酸素濃度を減量するように推奨しています。

(6) アドレナリンの使用

人工呼吸の重要性が強調されており、人工呼吸と胸骨圧迫を中断してまでアドレナリンの投与は実施する処置ではないとされました。人工呼吸と胸骨圧迫を優先しながらその投与を検討します。アドレナリンの投与量や投与経路には変更はありません。

2) 早産児の蘇生

(1) 臍帯処置

蘇生を必要としない早産児では、30秒以上の臍帯遅延結紮が推奨されました。

また、在胎28週未満の早産児で蘇生処置を必要する場合、臍帯遅延結紮は実施困難であり、蘇生処置の妨げにならない臍帯ミルキングで代用するのは合理的であるとされました。

(2) 保温

分娩室においてラジアントウオーマ下で蘇生処置を受ける32週未満の早産児では、低体温を避けるために、23-25度の室温、温かいブランケット、皮膚を乾燥させずに実施するプラスチックラッピング

グ、帽子、温熱マットレスなどを組み合わせる必要があるとされました。

(3) 人工呼吸開始時の酸素投与

人工呼吸が必要な早産児においても初期酸素濃度は、21-30%の低濃度で開始することを推奨しています。

(4) 早産児に対する PEEP (終末呼気陽圧換気)

分娩室での蘇生の間、早産児に対し終末呼気陽圧換気 (PEEP) を使用することを提案しています。正期産児に関してはデータが不十分で推奨には至らないとしています

(5) 出生時の呼吸障害に対する CPAP

分娩室で呼吸サポートを必要とする程度の呼吸障害がある自発呼吸のある早産児に対して、挿管、IPPVを行うよりも、まずCPAPを使用することを推奨しています。

3) ラリngeアルマスクエアウェイ (LMA) 推奨と提案 (図5)

34週を超える早産児や正期産児の蘇生において、フェイスマスクでの換気がうまくいかなければ、LMAを気管挿管に代わる手段として提案されました。

34週を超える早産児や正期産児の蘇生において、陽圧換気がうまくいかず、気管挿管が出来ない特殊な状況であれば、LAMが推奨されました。

おわりに

NCPR2015が普及することにより、的確な新生児蘇生法が行われ、不運な新生児が減ることを望みます。

助産師として、教育者として

滋賀県立大学人間看護学部
成育看護学講座母性看護学領域 助教

本岡夏子

私がこの琵琶湖の湖畔に佇む滋賀県立大学に助手として着任してから、ちょうど丸3年が経ちました。この春から4年目となり、助手から助教と昇任したこと、また、本学の助産師教育が今後大学院化する予定となっていることから、さらに身の引き締まる思いで、日々領域の先生方にご指導を受けながら精進しております。

こちらに着任する前は、大学病院の産科病棟で助産師として勤務しておりました。臨床時代は、ハイリスク妊産褥婦の対象者と関わる中で、助産師のケアの在り方や方向性を考えることが多くあり、もっと助産師のケアについて深めたい、勉強したいという気持ちを持っていました。また、母性看護の実習に來た学生たちと関わることで、さらに良い学びをしてもらうためには、私自身学生とどう関わればよかったのだろうと振り返ることもありました。そのような臨床での経験と、御縁があって、本学に着任の運びとなりました。しかし、臨床経験が少ないまま教員となったことで、自身の知識や経験の不足が学生に悪い影響を与えないだろうかと、着任当初は不安が多くありました。実際に、授業や実習において学生から質問を受けた際、エビデンスに基づく説明ができないこと、知識の幅が狭く学生に伝えられる量が少ないこと、学生の自律と理解を促進するよ

うな指導法が実践できないことなど様々な困難があり、これらは3年たった今でもまだまだ勉強不足を実感しております。

この3年間、少しずつ授業や実習で教育の経験を積ませていただき、責任を少しずつ与えていただく中で、教育者としての自分の在り方、自分のなりた姿が見えてきたように感じております。そしてとうとう今年度は母性看護の演習を担当させていただいております。看護学生時代の私にとって、母性看護の演習は、新たな知識を学び自身の考えを深めることができる非常に楽しい授業でした。反面、毎日の課題の多さと授業の進行についていけない自分に気づいたことで、厳しさや悔しさを感じた時間でした。そして、私はあの授業があったからこそ、母性看護の面白さ、神秘性に気付き、助産師になりました。教えてくださった先生に、今になって感謝を感じ、そして先生のような授業がしたいと日々考え、現在授業を練りに練っております。「授業が楽しい」「理解が深まった」「もっと授業をしてほしい」といった学生の授業へのレスポンスが私の支えです。

今はまだまだ未熟ですが、今後、助産師として、そして教育者としての自分のアイデンティティを確立していきたいと考えております。

Willnext ウィルネクスト「ケガ・感染・日常の賠償」は、ご自身のケガ、日常生活の賠償事故への補償、感染見舞金制度を備えた補償制度です。

年間掛金 約68%
6,200円 割引
年会費100円と
共済制度運営費
370円を含む

安心1 ご自身のケガ

例 業務中、患者さんをベッドから車イスに移乗させる際、腰部を捻挫してしまっ

安心2 第三者への賠償責任

例 自転車で通勤中、歩いていた老人にぶつかってしまい、相手に大けが(複雑骨折)をさせてしまった!

安心3 自宅待機期間中を含む感染事故見舞金(共済制度)

例 インフルエンザに罹患し、通院・自宅待機となっていました!

このご案内は、Willnext「ケガ・感染・日常の賠償」の概要をご紹介します。ご加入にあたっては、インプレットに記載の「重要事項説明」をよくお読みください。

保険期間:平成28年3月31日午後4時から平成29年3月31日午後4時まで(毎月中途加入を受け付けております)
詳細につきましては下記取扱代理店までお問合せください。

制度運営：一般社団法人日本看護学校協議会共済会
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社
(担当課)医療・福祉法人部 法人第一課
〒102-8014 東京都千代田区三番町 6-4 ラ・メール三番町
TEL:03-3515-4143

資料請求・お問い合わせ先
取扱代理店：株式会社メディックプランニングオフィス
〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-6 SJビル 2F
☎ 0120-847861 9:00~17:00(土・日・祝日・年末年始を除く)



★資料請求用QRコード

16-T14246(平成28年6月)

公益社団法人 全国助産師教育協議会

平成 27 年度 第 7 回理事会議事録

日時：平成 28 年 1 月 11 日（日）13：30～16：40

場所：東京都助産師会館 5 階（会議室）

出席理事：井村真澄、我部山キヨ子、佐藤香代、
久保田君枝、鈴木康江、高橋順子、
兵頭慶子、福島裕子、渡邊典子

出席監事：熊澤美奈好、島田啓子

出席幹事：潮田千寿子、山崎圭子

欠席理事：大石時子

欠席監事：島田啓子

書記：潮田千寿子（敬称略）

理事総数：10 名 出席理事：10 名 欠席理事：1 名

監事総数：2 名 出席監事：2 名 欠席監事：1 名

議事次第

I 会長挨拶

地区長会は会員校からの意見を共有するよう願っている。また、母性看護学実習の通達に対し、関連 4 団体連盟での要望書を 1 月 18 日に厚労省に提出予定である。助産学実習に係る分娩取扱数基準の規制緩和の提案に対しては、厚労省及び文科省から 10 例堅持の通知が出された。当協議会は母子、家族がよりよい状態で生活できるよう、国民の負託にこたえる形で力を合わせて進めて行きたい。理事会は本会運営のエンジン部分であり、6 月まで力を合わせて進めていきたい旨話された。

II 審議事項

1) 議事録承認

・平成 27 年度第 6 回理事会議事録（案）が承認された。

2) 平成 27 年度母性看護学実習における臨地実習に関する要望書について説明され、了承された。

・分娩介助数 10 例堅持の厚労省からの通達状況については、各都道府県に確認する。

3) 厚生労働省看護職員確保対策特別事業の申請、調査研究計画について説明があり、厚労省からの照会事項への回答は審議、決定した。

4) 教育検討委員会

・大学院モデルカリキュラム改正後の調査について、国家試験前に学生に記載してもらい回収する予定であること、各機関校の教育課程責任者のみが回答する内容と各教員が回答する内容の二本立てとすることが決

定した。

5) 平成 28 年度事業計画・予算（案）について説明があった。

6) 平成 28 年度事業計画 パブコメ案について

①教員養成研修の実態調査の依頼が会員校から寄せられた件について、対応案を検討した。

②国際関連活動委員会 事業計画が了承された。

③教育検討委員会 事業計画 について、一部修正し再提出とした。

7) 将来構想委員会 臨床助産師と教育者の意見交換会 企画（案）について、委員会で再検討となる。

8) 将来構想委員会 助産師教育実践報告会 企画（案）について、了承された。

9) 社会貢献委員会

①調査依頼について説明がなされた。第 6 回理事会時の提出資料を修正した。

②第 30 回日本助産学会学術集会について説明され、検討した。

10) 広報委員会からニュースレター NO87 企画案の説明がなされた。承認された。

11) 組織強化委員会

①アンケート調査のお願い文書（案）について意見が出され、委員会で再審議となった。

②助産学生へのアンケート（案）について①と併せ、再検討となる。

③ヒアリング調査について説明され、意見交換され、本格調査前のヒアリングとしての聞き取り調査を実施すること、H28 年度の事業計画・収支予算を修正して提出すること、パブコメを変更することになった。

12) マイナンバー制度導入について説明があり、確認検討事項については、継続審議となる。

13) 講師謝金について説明があり、平成 27 年 12 月 13 日からの施行とすることで決定した。

III 報告事項

1) 教育検討委員会（教育推進班）

・モデルカリキュラムについて説明があり、今後の方針については検討中である旨報告があった。

2) 鈴木雅洲先生お別れ会について

3) 日看協 賀詞交歓会について報告があった。

Ⅳその他

- 1) 元全助協会長 玉田太朗氏訃報
- 2) 平成 28 年度のファーストステージ研修
- 3) 総会での講師について説明があった

平成 27 年度 第 8 回理事会議事録

日時：平成 28 年 3 月 26 日（土）11：00～17：20

場所：東京都助産師会館 5 階（会議室）

出席理事：井村真澄、我部山キヨ子、佐藤香代、
大石時子、鈴木康江、高橋順子、
福島裕子、渡邊典子

欠席理事：久保田君枝、兵頭慶子

出席監事：熊澤美奈好、島田啓子

出席幹事：潮田千寿子、山崎圭子

書記：潮田千寿子（敬称略）

理事総数：10 名 出席理事：8 名 監事総数：2 名

出席監事：2 名

議事次第

I 会長挨拶

- ・年度末の忙しい中参集いただき感謝する。有意義な審議を重ねて活動につなげたい。
- ・次年度の活動内容と予算を確定し、全助協の発展的活動につなげる。
- ・内外の動き（関連諸団体：医師、看護、助産を取り巻く政治の動き等）を勘考しながら活動を推進していく。

II 審議事項

1) 議事録承認

①平成 27 年度地区長会議事録（案）が承認された。

②平成 27 年度第 7 回理事会議事録（案）について、一部修正し承認された。

2) 平成 28 年度事業計画について審議され、一部修正し、平成 28 年度事業計画は承認された。

3) 平成 28 年度収支予算（案）について説明があった
各委員会等の予算案説明および意見交換について承認され、平成 28 年度収支予算は承認された。

4) 第 7 回社員総会日程（案）・日程案について、検討された。

5) 広報委員会

① HP、次回 NL 企画案について検討された。

②総会の地区長会議時に、早目に HP に掲載できるよう依頼。

6) 組織強化委員会活動について報告があり、審議された。

7) 助産師教育研修研究センター運営委員会

①外部講師謝金

・28 年 2 月までに依頼した講師についての謝金は、暫定的措置とする。それ以降は理事会で決定した謝金基準に則る。

②平成 28 年度 FS 研修教育規程（案）：一部修正し、承認された。

8) 正会員退会・個人会員入会

・退会、および入会について承認された。
・個人会員を増やす努力をする。

9) 日本助産評価機構役員推薦について審議され、人選された。

10) 平成 28 年度理事会日程

7 月 16 日（土）、9 月 22 日（木祝）、10 月 16 日（日）、12 月 17 日（土）

1 月 9 日（月祝）地区長会も同日実施、3 月 11 日（土）、6 月総会前日とする。

11) 平成 29 年度総会会場 について検討。

12) 将来構想委員会

・2 年間の教育課程の検討については、今後とも継続する。
・今後、大学院化を進めるために必要な課題を抽出する。

13) 助産実践能力習熟度段階（クリニカルラダー）教員対応

・教員は基本的に教育機関において学生教育を行うため、臨床実務にあたっている助産師のように実践力を維持・向上することは必然的に難しい条件下にある。
上記を踏まえて、今後の教員の新規申請、継続更新条件をどのように考えるか、具体案を含めて検討し協議会に意見を提案する必要がある。CloCMiP における教員の対応については、継続審議とする。

14) 国際関連活動委員会

①事業計画として、平成 29 年度を目途に海外の助産師教育の視察の検討された。

② International Journal of Child Birth に出した報告が reject された。投稿先は委員会に持ち返し、審議する。

III 報告事項

1) 国際関連活動委員会について報告がなされた。

2) 第 99 回助産師国家試験の検討結果について報告がなされた。

3) 全国研修会・教育検討委員会について報告がなされた。

- 4) 第30回日本助産学会学術集会助産師学生交流・講演会、表彰等は好評であった。17校が成果発表した。
- 5) 社会貢献委員会から以下の活動報告がなされた。
 - ①健やか親子 21 推進協議会
 - ②第1回テーマグループミーティング
 - ③健やか親子 21 2次 今後の推進体制
- 6) 助産師教育研修研究センター運営委員会
 - ①平成28年度助産師教育研修研究センター運営委員増加（2名に承認いただいた）旨、報告された。
 - ②平成28年度研修計画
 - ③平成27年度FS研修修了式
- 7) 要望書提出（文科省・厚労省・4団体）
- 8) 第39回助産師団体連絡会
 - ①日看協のCloCMiP：重点課題、助産師出向システム、コーディネーターについて説明された。
 - ②地域母子保健の推進：全助協および会員校の教育にも影響する。
 - ③助産師が担うウイメンズヘルス能力：今後、具体的能力を抽出し検討される予定である。

- 9) 日本助産実践能力推進協議会
- 10) 自民党看護問題小委員会
- 11) 厚労省看護職員対策特別事業（厚労省委託研究）

IV その他

- 1) 6月2日（木）前日理事会開催場所
- 2) 前全助協会長 玉田太郎氏 お別れの会
- 3) ヘルシー・ソサエティ賞（3月31日）に出席予定である。
- 4) 正会員名一覧表への追加表記

V. 臨時審議事項

- 1) 会計報告
 - ①予算案については、三役に確認して進める。赤字になりそうであれば、各委員会で一律、何%かの削減をすることになるかもしれない旨、承認された。
 - ②特定費用準備資金について、2～3年間の事業計画として延長することを、行政書士、会計、三役で検討する。
 - ③会計監査日程については会計、監事、行政書士とで決定する。

編 集 後 記

今年の4月には震度7が二回続くという、熊本地震が発生しました。被災されました方々には心よりお見舞いを申し上げ、1日も早い復興を願っております。

毎回皆様方には、お忙しい中、快く執筆をお引き受けいただき本当に感謝しております。少しでも最新のニュースやトピックをお知らせすべく、広報委員全員で取り組んでおります。今後も学生にも臨床にも幅広く役立つ情報をめざしてまいります。皆様からのご意見、ご要望がいただければ幸いです。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

中西 伸子（奈良県立医科大学）
東尾 公子（近畿大学附属看護専門学校）
古川 洋子（滋賀県立大学）
岡山 久代（筑波大学医学医療系）
鈴木 康江（鳥取大学）

●助産師教育ニュースレター 第87号

2016年9月23日

発行人 公益社団法人 全国助産師教育協議会事務局
Japan Society of Midwifery Education (J.S.M.E)
会長 井村 真澄
〒112-0013
東京都文京区音羽 1-19-18 東京都助産師会館 2階
電話・FAX 03-3944-2911
(火・金 事務局在室)
<http://www.zenjomid.org/>
E-mail zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp

平成28年9月22日

会員校・個人会員の皆様

全国助産師教育協議会
会 長 井村 真澄

熊本地震災害義援金のご報告とお礼

平成28年4月26日から9月22日までの間ご協力をお願いしておりました、「熊本地震災害義援金」募金活動につきましては、多くの会員校、個人会員の皆さまから多大なるご厚意をいただき、誠にありがとうございました。

皆さまからお預かりしました義援金総額159,963円を被災された方々にお送りする手続きをしておりますので、ご報告いたします。

一日も早い復旧復興をお祈り申し上げますとともに、ご協力いただきました皆さまに心よりお礼申し上げます。